

人によりそい地域を支える医療

私は 5 月に一カ月間、上越総合病院の総合診療科の実習で、毎日外来患者さんの問診をさせていただきました。疾患ごとに知識を深めていく普段の勉強とは異なり、問診で症状から鑑別疾患をあげ、身体診察や検査で診断を絞っていくトレーニングを積むことができました。先生方からは手厚いフィードバックもいただき、問診や身体診察の基本的な技術を磨くことができました。お忙しいところご指導いただいた先生方と、そして実習にお付き合いいただいた患者さんには、大変感謝申し上げます。

総合診療科に受診する患者さんは、症状や背景がそれぞれ多彩でした。患者さんがどういった理由で受診し、診療にどんなことを望んでいるかによって、治療や処方などにも選択の余地が生まれます。問診を通して患者さんの話を傾聴し、時には思いを推し量って、患者さんの思いを考えることの重要性を学びました。

高齢化が進む中、患者さんはいくつかの基礎疾患を抱えた状態で受診してくることが多くなります。ある一つの疾患に対する専門的治療を行うにも、他の基礎疾患に対してある程度の対処能力を備えていることが必要となります。これからは都市部でも地方でも、どの地域においても、ジェネラルマインドを持った医師の需要は高まっていくことと思います。将来の医療を支えることができる医師になれるよう、実習で学んだことを糧にこれからも研鑽に励みたいと思います。